



板野西小校長室だより

子ども 保護者 地域が 輝く 西小に

令和7年12月 9日 板野町板野西小学校

感動した！人権学習発表会

12月6日（土）に、人権学習発表会を開催しました。子どもたちの発表を熱心に参観していただき、誠にありがとうございました。一生懸命な姿を見逃さないように集中して見てくださっている保護者の方の姿に、子どもたちとの一体感を感じ、とてもうれしくなりました。この機会にご家庭でも、人権について話し合っていただけると、幸いです。

【子どもたちの発表から】

○1年生 はしのうえのおおかみ

1年生は、人権学習で学んだ「はしのうえのおおかみ」を劇にして発表しました。おおかみは、最初は意地悪をすることで、いい気持ちになっていました。しかし、優しいくまさんに出会って、本当の気持ちよさに気づき、優しく接することができるようになりました。劇の最後に、自分たちの生活を振り返り、「友達をにこにこさせたい」、「あったかい気持ちになるようなことをしたい」と、発表しました。一生懸命に「私たちはみんな生きている」を歌っている姿に感動しました。

○2年生 たいせつな なかま

2年生は人権学習で学んだことを、人権かるたにして発表しました。「いのちはひとつ たいせつに」「かんがえよう あいてのきもちを たいせつに」「のりこえられる つらいことも なかまがいるから」「まもろうよ じぶんも ともだちも たいせつだ」緊張して自分の番になっても言えない友達に、やさしく声をかける友達の姿を見ました。最後にみんなで「手をつなごう」を手をつないで歌いました。子どもたちの成長を感じることができました。

○3年生 あの子

3年生は、1学期に人権学習で学んだ「あの子」を劇にして発表しました。あるクラスでおきた「うわさ」から始まったお話しです。あの子、「誰かを泣かしたらいいよ」「だれかの物をかくしたって聞いた」と、うわさだけが広がっていきます。劇の後半、3年生になって学習したことを思い出します。「ちゃんと自分で確かめることの大切さ」に気づいていきました。最後に、3年生として残り4ヶ月の決意を聞くことができました。劇の中でも「あの子」なることは、辛いので絶対に「あの子」は作らないという言葉に感動しました。

○4年生 町を守った人たち

4年生は、人権学習教材「ひかり」から「いのちをつないだ牛」を劇にして発表しました。板野町に生きた先人のすばらしい生き方についての話です。ある時、大雨により育てた米や野菜、牛などすべての物が流されました。町の人々は、大人も子どもも餓死寸前です。その時、別の町から牛が流されてきていることに気づきました。その夜、多くの人々が同じ夢を見ます。「牛さんの命を使ってください」と、町の人たちは、みんなで協力して、牛を使い切り命をつなぐことができました。子どもたちからは、「板野町に誇りをもって生きたい」と、力強い言葉が聞かれました。

○5年生 タイムスリップ！ その思い込み、本当に正しい？

5年生は、人権学習やふれあい活動で学んだ様々な人権課題を劇にして発表しました。タイムスリップしながら、学んできたことを振り返りました。生まれた場所や地域によって、差別をすることの不合理さ。昭和時代には、男子は技術、女子は家庭科と別れて授業を受けていたこと、わたしも何も考えずに受けていました。性には多様性があるということ。インターネットやSNSは、使い方を間違えると人を傷つけるということ。子どもたちは、これからどう生きるのか力強く宣言しました。

○6年生 渋染一揆

6年生は、人権学習で学んだ「渋染一揆」を劇にして発表しました。暴力的に訴えるのではなく、理路整然と説得するような文章であったこと等、嘆願書のすばらしさが表現されていました。集団直訴の朝、家族と別れるシーンでは、迫真の演技ができました。「渋染一揆」から仲間の大切さ、団結の力、正しいことをやり抜く強い心を学ん学びました。最後に力強く、行動宣言を行いました。6年生が学習したことが、保護者に伝わる迫力のある劇でした。6年生は、午後からさくらホールでも、劇を披露しました。町民の方にも、6年生の思いがよく伝わりました。

